

イスラエルの人々⑱

□イスラエルの人々の信仰の手本

神はバラムに言われた。「あなたは彼らと一緒に行ってはならない。また、その民をのろってもいけない。その民は祝福されているのだから。」 (民 22 : 12)

□前回までの振り返り

1. 荒野の旅も 40 年目に入り、宿営地は再びカデシュ。メリバの水事件が起きた。この事件の中でモーセとアロンは主の命に従わなかったために、二人とも約束の地に入れなくなった。カデシュを旅立ち、ホル山に着いたとき、アロンが死んだ。
2. 前回は、ホル山から旅立ったあとに起きた事件、**燃える蛇事件**であった。
 - (1) ホル山を旅立つと、エドムの地を迂回するため、南の紅海に向かう道を進んだ。再び約束の地から離れて行く。その途中で民の不満が爆発した。
 - (2) 不平を言った民に対して、神の罰が下った。「燃える蛇」と呼ばれる蛇の来襲であった。咬まれると、体中が燃えるように熱くなり死に至る毒を持つ、恐ろしい毒蛇だったようである。
 - (3) 民がモーセのところに来て助けを求めたので、モーセは民のために祈った。
 - (4) 主はモーセに、作り物の蛇を旗ざおの上に付けるように命じ、かまれた者がそれを仰ぎ見れば、死なずに「生きる」、と約束された。実際、かまれてから、それを仰ぎ見た者は生きた。
 - (5) 旗ざおの上に付けられた青銅の蛇は、十字架に付けられたイエスを予め示すモデルである。仰ぎ見れば、生きるという神の約束がそこにある。
3. 紅海にまで達すると、進路を北東に変え、エドムとモアブの領地を左に見ながら北上し、モアブの領地を過ぎたあたりで進路を西に変え、荒れ野を見下ろすピスガの頂、別名ネボ山に着いた。その荒れ野には「王の道」が通っていて、ヨルダン川に達し、ヨルダン川を渡れば、約束の地である。しかし、その荒れ野を支配していたアモリ人はイスラエルの通過を許さず、出兵してきたので、イスラエルはこれと戦い、勝利し、その地とアモリ人の町々を占領した。(民 21 : 10~35)
 - **アモリ人**・・・アブラム 85 歳頃のときに主から受けた約束 創世記 15 : 15~16 あなた自身は、平安のうちに先祖のもとに行く。あなたは幸せな晩年を過ごして葬られる。そして、四代目の者たちがここに帰って来る。それは、アモリ人の咎が、その時まで満ちることがないからである。
4. イスラエルは旅を続け、ヨルダン川の東、モアブの草原に宿営した。イスラエルはそこを通過するだけで、モアブと戦う意図はなかったが、モアブの人たちは恐れた。モアブの王は呪術者バラムを招き、イスラエルを呪わせようとするが、主は逆に祝福のことばをバラムに語らせる。今回は、バラムの事件、その前半である。

□イスラエルの人々^⑱ バラムの事件【前半】 民数記22章

1. イスラエルは旅を続け、ヨルダン川の東、モアブの草原に宿営した。モアブの王バラクは、イスラエル人に恐怖を抱いた。イスラエルがアモリ人を破り、民の数も多かったからである。モアブ族だけでは対処できないと考え、ミディアン族に共闘を呼びかけた。(民22:1~4)
2. モアブの王は、戦う前にイスラエルに呪いをかけておこうと考え、ユーフラテス川のほとりのペトルという町にいる有名な呪術者、**バラム**を招くこととした。モアブの長老たちとミディアンの長老たちを使者として遣わし、占い料を持たせ、次のように依頼のことばを伝えさせた。

民22:5b~6 「見なさい。一つの民がエジプトから出て来た。今や、彼らは地の面をおおい、私の目の前にいる。今来て、私のためにこの民をのろってもらいたい。この民は私より強い。そうしてくれれば、おそらく私は彼らを討って、この地から追い出すことができるだろう。あなたが祝福する者は祝福され、あなたがのろう者はのろわれることを、私はよく知っている。」

- この民は私より強い・・・かつてモアブの以前の王がアモリ人に敗れて領土を奪われた(民21:26)。その地をイスラエルがアモリ人から勝ち取ったので、イスラエルはモアブよりも強いとなる。
 - あなたが祝福する者は祝福され、あなたがのろう者はのろわれる・・・サタンとその配下の悪霊の働きである。呪術者が祝福した者に、サタンは富や勝利を与え、呪術者が呪った者を、サタンは貧困や敗北に陥れる。
3. バラムは神のお告げを受けて、招きを断った(民22:7~14)
 - (1) バラムは長老たちに言った。「今夜はここに泊まりなさい。主が私に告げられるとおりに、あなたがたに返答しましょう。」
 - (2) その夜、神がバラムのところに来て言われた。「あなたと一緒にいるこの者たちは何者か。」バラムが依頼されたことを話すと、神はバラムに言われた。「あなたは彼らと一緒に行ってはならない。また、その民をのろってもいけない。その民は祝福されているのだから。」
 - (3) 朝になると、バラムは起きて長老たちに言った。「あなたがたの国に帰りなさい。主は私があなたがたと一緒にいくことをお許しにならないから。」
 - (4) 長老たちはモアブの王バラクのところに帰り、報告した。「バラムは私たちと一緒に来ることを拒みました。」

4. モアブの王は再度招き、バラムはもう一度神のお告げを求めた（民 22：15～20）
- (1) モアブの王は、先の者たちよりも大勢の、しかも位の高い長たちを遣わした。バラムは「私は私の神、主の命を破ることは、事の大小にかかわらず、断じてできません」と言いつつ、本心は高額の占い料を自分のものにしたいので、「主が私に何かほかのことをお告げくださるかどうか、確かめましょう」と答え、王の家臣たちを泊ませた（民 22：15～19）
- **私の神、主**・・・バラムは信者ではない。バラムにとって、「主（ヤハウエ）」は、多くの神々の中のひとり、イスラエルの神である。「私の神」とバラムが言ったのは、前回はこの神が自分に現れてお告げをしてくれたので、自分はイスラエルの神とも特別な関係にあると誇ってみせた。
- (2) 民 22：20 夜、神はバラムのところに来て、彼に言われた。「この者たちがあなたを招きに來たのなら、立って彼らと一緒にいけ。だが、あなたはただ、わたしがあなたに告げることだけを行え。」
5. 翌朝バラムは出かけるが、進路に主の使い（第二位格の神）が立ちはだかっているのに気づかず、バラムはろばを三度打った（民 22：21～27）
- (1) バラムは朝起きて、自分のろばに鞍をつけ、王の家臣たちと一緒に出発した。バラムはろばに乗っていて、二人の若者がそばにいた。
- (2) 彼が行こうとすると、主の使いが彼に敵対して道に立ちはだかった。ろばは、主の使いが抜き身の剣を手を持って、道にたちはだかっているのを見たので、道からそれて畑に入ってしまった。バラムはろばを打って、道に戻そうとした。
- (3) すると、主の使いは、両側に石垣のある、ぶどう畑の間の狭い道に立った。ろばは主の使いを避けて、石垣に寄ってからだを石垣に押しつけたので、バラムの足も石垣に押しつけられてしまった。バラムはさらにろばを打った。
- (4) 主の使いはさらに進んで行って、狭くて、右にも左にもよける余地のない場所に立った。ろばは主の使いを見て、バラムを乗せたまま、その場にうずくまってしまった。バラムは怒って、杖でろばを打った。
6. すると、主がろばの口を開いてバラムに抗議させた。そして次に、主はバラムの目の覆いを除いて、彼に主の使いを見えるようにさせた。バラムはひざまずき、主の使いを伏し拝んだ（民 22：28～35）
- (1) 民 22：28～30 すると、主がろばの口を開かれたので、ろばはバラムに言った。
「私があなたに何をしたというのですか。私を三度も打つとは。」
バラムはろばに言った。「おまえが私をばかにしたからだ。もし私の手に剣があれば、今、おまえを殺してしまうところだ。」
ろばはバラムに言った。「私は、あなたが今日この日までずっと乗ってこられた、

あなたのろばではありませんか。私がかつて、あなたにこのようなことをしたことがあったでしょうか。」

バラムは答えた。「いや、なかった。」

(2) 民22：31～35 そのとき、主はバラムの目の覆いを除かれた。

すると彼は、主の使いが道に立ちほだかり、抜き身の剣を手に持っているのを見た。彼はひざまずき、伏し拝んだ。

主の使いは彼に言った。「何のために、あなたは自分のろばを三度も打ったのか。わたしが敵対者として出て来ていたのだ。あなたがわたしの道を踏み外していたからだ。ろばはわたしを見て、三度もわたしから身を避けた。もし、ろばがわたしから身を避けていなかったなら、わたしは今すでに、あなたを殺して、ろばを生かしていたことだろう。」

バラムは主の使いに言った。「私は罪を犯していました。あなたが私をとどめようと道に立ちほだかつておられたのを、私は知りませんでした。今、もし、あなたのお気に召さなければ、私は引き返します。」

主の使いはバラムに言った。「その人たちと一緒にいけ。しかし、わたしがあなたに告げることばだけを告げよ。」

そこでバラムはバラクの長たちと一緒にいった。

【次回に続く】

□本日の課題 2問 ①と②のいずれか正しい方を選んでください

1. 主はイスラエルを呪ってはいけないとバラムに言われました。「その民は祝福されているのだから」という理由ですが、イスラエルは従順で良い民になっているでしょうか？
 - ① はい、祝福されているのだから、なっているはず。
 - ② いいえ、不満を言い立て、反抗するのは相変わらず。でも、主は無条件でイスラエルを祝福すると約束したので、その約束を守り、祝福してくださる。

2. 主はバラムに、一度目は「行ってはならない」と言われましたが、二度目は「行け」と言われました。主の命令が変わったのは、なぜでしょうか？
 - ① モアブの王にバラムを雇わせ、イスラエルを呪わせようとするのは、主の計画の中にあつたから。しかし、最初から「行け」と言うと、バラムが自分流で行動するので、一度目は「行ってはならない」と言われた。
 - ② 主のみこころは、最初から「行くな、呪うな」。しかし、信仰のないバラムが自分の欲望のままに動こうとするのであれば、主はその人を止めない。主は譲歩して、「行け」と言われた。しかし、バラムは主から告げられたことだけを行わねばならない。主の使いがそのことを念押しした。